

ねん がつ にち  
2023年2月26日

しじゅんせつだい しじゅつ  
四旬節第1主日

きくち いさおだい しきょう  
菊地 功大司教 メッセージ

しじゅんせつ  
四旬節は、わたしたちが信仰の原点を見つめ直し、いつくしみに満ちあふれた御父の懐  
にあらためて抱かれようと心を委ねる、回心の時です。

そうせい き しる  
創世記に記されているように、自由意志を与えられた人間は、自らの選択によって罪を犯  
し、パウロが記すように、「一人の罪によって、その一人を通して死が支配するように」  
なりました。しかし、一人の人、すなわちイエスの「従順によって多くの人が正しい者  
とされ」、神からの恵みと賜物に豊かに満たされるようになりました。四旬節は、この  
あふれんばかりの神の愛、すなわち、人類の罪を贖ってくださった主ご自身の愛の行動  
を思い起こし、それによって永遠の命へと招かれていることを心に刻み、その愛の中  
で生きる誓いを新たにするときです。

そのために教会の伝統は、四旬節において「祈りと節制と愛の業」という三点をもつ  
て、信仰を見つめ直すよう呼びかけています。また四旬節の献金は、教会共同体の愛  
の業の目に見える記しでもあります。この四十日の間、互いに支え合う心をもって、愛  
の業の内に歩み続けましょう。

ふくいん しゅ  
福音は主イエスが、その公生活を始めるにあたり40日の試練を受けられたと記していま  
す。

この試練の中で、イエスは三つの大きな誘惑を受けたと、福音に記されています。

まず空腹を覚えた時に、石をパンにせよとの誘惑。それは人間の本能的な欲望や安楽・  
安定にとどまることへの内向きな願望です。次にすべての権力と繁栄を手にとること  
への誘惑。それは権力や繁栄という現世的で利己的で排他的な欲望です。そして神に  
挑戦せよとの誘惑。それは自分こそがこの世界の支配者であるという謙遜さを欠いた思  
い上がりの欲望です。

かんが ながみ だいしょう ちが じんせい よくぼう  
考えてみれば、その中味に大小の違いはあっても、わたしたちの人生はこういった欲望  
しはい れんぞく  
に支配されることの連続です。

あくま ゆうわく かみ はな ほうこう ひと ふ ちから  
悪魔からの誘惑とは、神から離れる方向へと人をいざなう、さまざまな負の力のことで  
す。そしてその誘惑は、実は、外からやってくるものではなく、結局のところ、わたし  
ひとり ひとり の ころ なか う だ たしや め む てつていてきり こてき  
たち一人ひとりの心の中からは生み出されています。他者へと目を向けず、徹底的に利己的  
じ こちゅうしんてき ゆうわく  
かつ自己中心的になることへの誘惑です。

こんなん じ き きょうかいきょうどうたい ごせいたい み こと ば きずな きょうだい  
この困難な時期、教会共同体において、御聖体や御言葉の絆でつながっている兄弟  
しまい おも は きずな なか いっ ち おまね おも お  
姉妹に思いを馳せ、その絆の中で一致へと招かれていることをあらためて思い起こしま  
しょう。